

# 内 科

副院長内科統括 城 浩介

## 1 特徴

内科は現在常勤医15名で診療にあたっている。

内科を始め、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、神経内科、腎臓内科、糖尿病内科を標榜している。また名古屋大学や愛知医科大学の医局の御協力をいただき、総計30名以上の非常勤医にご指導を賜っている。非常に専門性の高い医療を提供できるよう整えている。

外来診療や入院診療及び夜間救急対応を含めて24時間体制で診療を行っているだけでなく、他科のバックアップなど、院内での基礎的な役割を担っていると自負している。内科各科の詳細は各部長の報告を参考にさせていただきたい。

## 2 2010年活動実績

2010年の目標としてきた頼りがいのある内科としての努力はしてきたつもりである。また、内科増員と診療の充実や病診連携の充実、さらには最先端医療に遅れをとらない努力は、それぞれが発展し実現ができたと考えている。

消化器内科の増員があり、小腸カプセル内視鏡読影センター発進にむけ準備を整えているだけではなく、当地区の中心的な役割をになうべくおおきな一歩をふみだしたといえる。

一般内科も増員され、ますます地域医療に貢献できる体制が整ってきた。

病診連携では、これまでどおり年2回の内科全体の研究会や小規模な病診連携の会を催し、診療所の先生方と直接話しをすることにより、よりよい地域医療が提供できるよう考慮してきた。

また各専門科が、全国学会に参加したり、大学病院からの非常勤医からの情報収集であったりと、最先端医療をとり入れる意識は非常に高い。

## 3 2011年目標

専門的な今後の目標は、内科各専門科に期待したい。

内科全体としては、これまでどおり地域住民に信頼されることはもちろん、地域の開業医の先生方や、また院内他科や他部門にも期待され頼りにされる内科であるようさらに努力したい。

# 循環器内科

循環器内科部長 磯部 智

## 1 特徴

循環器内科は常勤2名、非常勤2名で診療活動をおこなっている。3次救急患者（重症心不全症例、緊急インターベンションが必要な症例）の受け入れは困難であるが、それ以外の患者の一般外来および救急外来診療を行っている。

## 2 2010年度の活動実績

2007年度より開始した冠動脈CTはのべ500例を超えた。昨年、当院で集めた冠動脈CTに関するデータをアメリカ心臓協会（AHA）で発表出来たことは、大変な名誉なことであった。冠動脈CTはその高い陰性的中率を示すため、冠動脈CTと右心カテーテル検査を行うことで、侵襲的両心カテーテル検査とほぼ同等な情報が得られる。また徐脈性不整脈患者の診断と治療指針を決める目的で、心臓電気生理学検査を実施可能である。なお侵襲的冠動脈造影（左心カテーテル）検査、カテーテルアブレーションは不可能である。

### 2010年度 循環器年間検査件数

標準12誘導心電図	9041件
心臓超音波検査	84件
マスター負荷心電図検査	32件
エルゴメータ負荷試験	2737件
ホルター心電図検査	298件
頸動脈エコー検査	730件
冠動脈CTアンギオ検査	44件
右心カテーテル検査	3件
心臓電気生理学検査	3件
対外式ペースメーカー手術	3件
体内ペースメーカー植え込み手術	4件

## 3 2011年度目標

前年同様医師不足のあおりを受け、循環器内科の診療医師確保はきわめて難しい時代となり、土曜日の専門外来も縮小せざる得ない状況である。大学からの常勤医師の派遣が確約されている状況でなく、代務医師の確保も困難となっている。しかし、現状のメンバーで、当院の特徴であるジェネラリティが診れる循環器医師を目指す姿勢は変わりない。研修医および看護師などパラメディカルに対する循環器疾患の教育も必要であり、心電図モニター、不整脈、心不全、虚血性心疾患、ペースメーカーの勉強会を定期的に行い、パラメディカルのスキルアップに協力、患者が安心した入院生活を送れるよう互いに努力する。

# 消化器内科

消化器内科部長 小栗 彰彦

## 1 消化器内科の特徴

消化管（食道、胃、十二指腸、小腸、大腸）、胆道（胆嚢、胆管）、膵臓、肝臓などの消化器全般を対象に診療しています。消化管領域に於いては積極的に内視鏡的治療を行っています。吐血、下血時には、迅速に緊急内視鏡検査を行い、早期悪性腫瘍には（内視鏡的粘膜下層剥離術：ESD、内視鏡的粘膜切除術：EMR）を行っています。急性胆道疾患には、胆嚢穿刺吸引、ドレナージ術、内視鏡的乳頭切開術を行っています。肝臓領域では、ウイルス性肝炎にはインターフェロン、リバビリン、ラミブジンなどの薬物療法により、完治や安定したコントロールを目指しています。原発性肝癌には、ラジオ波凝固療法、肝動脈塞栓術、等を組み合わせた治療を行っています

## 2 2010年活動実績（1月～12月）

胃内視鏡検査 2261（うち、観察のみ2166） 経鼻胃内視鏡検査 182  
 内視鏡的消化管止血術 37 内視鏡的食道下部及び胃内異物摘出術 4  
 内視鏡的胃十二指腸早期悪性腫瘍粘膜下層剥離術（ESD） 4  
 内視鏡的胃十二指腸早期悪性腫瘍粘膜切除術（EMR） 1  
 内視鏡的食道・胃静脈瘤結紮術（EVL） 4  
 内視鏡的食道・胃静脈瘤硬化療法（EIS） 1  
 内視鏡下胃瘻造設術（PEG） 36  
  
 内視鏡的逆行性膵胆管造影（ERCP） 61  
 内視鏡的胆道ドレナージ（ERBD・ENBD） 26 内視鏡的胆道碎石術・截石術 17  
 内視鏡的胆道ステント留置術（EMS） 2  
  
 カプセル小腸内視鏡検査 16  
  
 大腸内視鏡検査 879（うち、観察のみ541）  
 内視鏡的大腸ポリープ切除術 305 内視鏡的大腸早期悪性粘膜切除術 17  
 結腸内視鏡的止血術 11 経肛門的イレウス管挿入 5  
  
 経皮的胆管ドレナージ（PTCD） 4 経皮経肝的胆道ステント留置術（EMS） 2  
 肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法 3 経動脈的塞栓療法（TAE） 8

## 3 2011年目標

消化器内科の検査や手技の種類は豊富であり、日々進歩しています。最先端の診断、治療手技を常に取り入れながら、患者さんに応じた全人的な診療をするように努めていきます。

# 呼吸器内科

呼吸器内科部長 佐々木 智康

## 1 概略

### A. 呼吸器内科の体制

常勤	…………… 1 名	非常勤	…………… 4 名
外来	…………… 月 - 土週 午前	禁煙外来	…………… 水曜午後完全予約
検査	…………… 定期: 火曜 午後	臨時	…………… 金曜 午後

### B. 対応可能疾患 (外来)

COPD、気管支喘息、慢性呼吸不全 (在宅酸素 HOT、在宅人工呼吸療法 HMV)、下気道感染症 (中等症まで)、気胸、睡眠時無呼吸症候群 (HMV)

### C. 対応可能疾患 (入院)

集中治療の対象者は除く、下気道感染 (中等症以上)、老人性誤嚥 (内科として対応)、慢性呼吸器疾患の急性増悪 (COPD、肺結核後遺症、間質性肺疾患)、急性呼吸不全、肺癌 (癌性胸膜炎、終末期の一部)、HOT・HMV・NPPV 導入、経気管支肺生検・洗滌、VATS/Biopsy (外科に依頼)

小括: 外来は名古屋大学医学部呼吸器内科の協力を得て専門医が毎日午前中診療し他科受診患者の対診は限度内で対応。胸部 X 線診断は外来・病棟各 1 箇所で行い、検査は原則として外来で施行する。入院は (準) 呼吸不全合併例を対象とし最重症・救急症例は高次医療機関へ移送。

## 2 臨床実績 (抜粋)

A. 気管支鏡	…………… 12 例
B. 経気管支肺生検・洗滌	…………… 25 例
C. 経気管支肺洗滌	…………… 2 例
D. 在宅酸素療法	…………… 27 例
E. 在宅人工呼吸療法 (NPPV)	…………… 12 例
F. 禁煙外来	…………… 9 例

## 3 学術活動

- A. 口演: 佐々木智康 日中の眠気に酸棗仁湯が有用だった COPD chronic obstructive pulmonary disease の一例 第11回桃李会総会 2010.04.11. 東京
- B. 司会等: 佐々木智康 シンポジウム 8 呼吸器領域における私の evidence と興味ある処方について 司会 第61回日本東洋医学会学術総会 2010.06.06. 名古屋

## 4 2011年の方向

- A. 検査: 呼気 NO 濃度、呼吸抵抗、ポリソムノグラフィー導入を検討中
- B. 禁煙外来: 内科外来看護師による高度な患者指導が可能になった
- C. 治療: ステロイド吸入薬や抗 IgE 抗体などの新規薬剤による治療の積極的導入
- 小括: 新規検査導入は無く検討中。専任看護師による禁煙外来の充実を目指す。

# 神経内科

神経内科医長 濱田 健介

## 1 特徴

神経内科は脳、脊髄、末梢神経、筋肉の疾患を専門とする科です。つまり脳梗塞や脊髄炎、末梢神経障害、筋炎で体の動きが悪くなったときに受診する科であり、脳の疾患でおこる認知症や意識障害なども専門とするため、今後の高齢化社会でその重要性はますます高くなると考えております。当院では常勤医の他に、名古屋大学神経内科から数多くの非常勤医師を迎え入れ、他の病院とも連携をとりながら、頭痛などの身近な疾患から稀な神経難病まで幅広い疾患に対応できる体制を整えております。

## 2 2010年活動実績

昨今の厳しい医療情勢の中、当院では昨年5月から脳神経外科の常勤医が不在になりました。神経内科の常勤医一人では、365日24時間の脳卒中急性期患者の受け入れは困難となっています。しかし昼間にウォークインで来院される脳梗塞の方や、各種神経変性疾患の方を幅広く受け入れ、当院内科医の中でも常に上位〜トップクラスの入院症例を受け持っております。

## 3 2011年目標

当院は急性期の病院ですが、回復期の上飯田リハビリテーション病院でも引き続き私が主治医として同じ患者さんを受け持っております。またどのような患者さんが脳卒中回復期に身体機能の改善が早いかという報告も、過去に3回、日本リハビリテーション医学会で発表しております。神経内科疾患は何らかの後遺症を残すことが多々ありますが、入院早期から予後を予測し、それを見据えた上で的確な医療を提供していきたいと考えております。

# 糖尿病内科

糖尿病内科医長 山本 由紀子

## 1 特徴

(外来診療) 常勤医2人、非常勤医2人体制で、月曜日から土曜日まで毎日外来診療を行っています。他科・開業医・人間ドックからの紹介患者についても随時受け付けております。

外来患者指導として、月に一度、2日間セットでの糖尿病教室を行い患者教育指導を積極的に行っております。

(入院診療) 糖尿病教育入院を積極的に受け入れております。血糖の是正だけでなく、患者教育・自己管理意欲を高める指導に重点を置いて入院中のプログラムを作成しております。通常の2週間入院だけでなく、2泊3日入院も行っております。

(他科との連携) 他科との連携をスムーズにとれるよう努力しており、他科入院中の患者の血糖コントロールおよび教育指導に関しても力を入れております。

## 2 2010年活動実績

常勤医の産休・入院などにより入院診療や他科患者の診療など十分に行えない時期などがあり、ご迷惑をおかけしました。

## 3 2011年目標

紹介・逆紹介を増やすべく地域連携パスを作成し、地域の糖尿病患者の糖尿病自己管理意欲をアップさせるようサポートして行きたい。

教育入院・外来糖尿病教室参加者がどの程度血糖コントロール改善を得られたかのデータ集計をし、地域医療の現場へ報告したい。

開業医との勉強会をとおして、地域の糖尿病診療の全体的なレベルアップをはかっていく。

# 外科

副院長外科統括 山口 洋介

## 1 特徴

消化器外科をはじめとし、呼吸器外科、小児外科と幅広く対応しています。2009年に比べて大腸、胃の鏡視下手術は倍増しました。また、乳腺外科・甲状腺外科に関しては中部地区の中核病院として頑張っています。

<スタッフ>

加藤万事（S58卒、院長、甲状腺・乳腺外科）

三浦重人（S38卒、特別顧問、乳腺外科）

加藤知行（S42卒、特別顧問、大腸外科）

山口洋介（S62卒、副院長、消化器外科）

窪田智行（H 4 卒、乳腺外科部長、乳腺外科）

佐々木英二（H 5 卒、外科医長、一般外科）

杉浦友幸（H 6 卒、外科医長、一般外科）

岡島明子（H 8 卒、外科医長、一般外科）

雄谷純子（H10卒、一般外科）

以上、名古屋大学腫瘍外科教室から安定したスタッフの供給を受け、特別顧問2名を含めた9名で診療にあたっています。

## 2 2010年活動実績

全身麻酔手術件数は673例。

以下に主な手術数を示します。

虫垂炎手術 …………… 25例	幽門側胃切除術 …………… 15例
ヘルニア手術（成人） …………… 59例	胃全摘術 …………… 18例
腹腔鏡下大腸切除 …………… 22例	結腸切除術 …………… 32例
腹腔鏡下胃切除 …………… 7例	低位前方切除術 …………… 20例
腹腔鏡下胆嚢摘出術 …………… 67例	直腸切断術 …………… 7例
開腹下胆嚢摘出術 …………… 14例	乳癌根治術 …………… 122例
総胆管切石手術 …………… 4例	甲状腺手術 …………… 157例
腎臓摘出術 …………… 0例	肺切除術 …………… 6例
膵頭十二指腸切除術 …………… 9例	気胸手術 …………… 6例
膵体尾部切除術 …………… 1例	食道亜全摘術 …………… 2例
胆道癌による肝切除術 …………… 1例	イレウス手術 …………… 4例
その他の肝切除術 …………… 16例	腹膜炎手術 …………… 6例
痔核手術 …………… 7例	

## 3 2011年目標

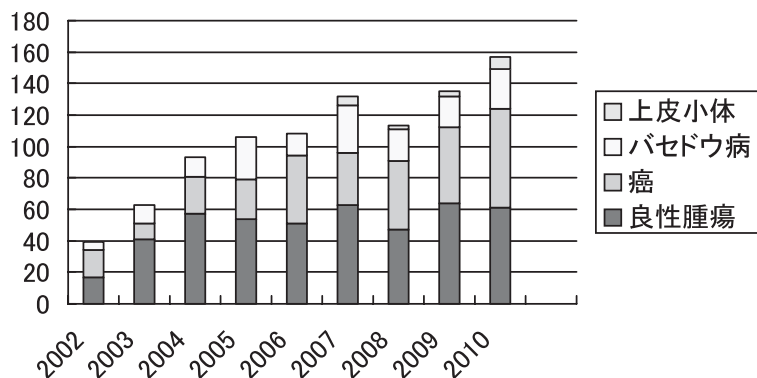
地域の中核病院としての地位を築いていくとともに鏡視下手術のさらなる拡大を目指します。

# 甲状腺内分泌外科

院長 加藤 万事

## 1 特徴とこれまでの実績

当院の甲状腺外科手術は東海3県で屈指の症例数を誇っており、過去10年間で  
も年々その手術実績を伸ばしてきました。2010年には初めて年間150例を超える



手術件数を積み重ねることが出来ましたが、これもひとえに日頃から甲状腺・内分泌疾患の病診連携・病病連携を通じて多くの先生方に応援していただいた結果と深く感謝申し上げます。

当院の甲状腺外科においては

- (1) 来院当日にUS, CT、細胞診を行い迅速に診断を得るシステムを持つ
- (2) 手術は全てベテランの麻酔専門医による全身麻酔管理であり、ラリンジアル・マスクの使用など術後咽頭痛などへの対策を立てている。
- (3) フランクフルト鉤、パワースターなど甲状腺手術に特化した手術器械を整備している。
- (4) クリニカル・パスを活用してチーム医療の中で情報の共有を推進している。など、小回りの利く病院ならではの利点を活かしてまいりました。

## 2 2011年度の目標

より患者アメニティの向上を目指し、疾患と治療の理解を深めるため

- (1) 患者・家族・市民を対象とした講演会、座談会の開催
- (2) パンフレットの作成

また、地域連携医との活発な情報交換を進め、地域としてこうした疾患を受け止めてゆける基盤作りにこれからも邁進してまいります。



# 乳腺外科

乳腺外科部長 窪田 智行

## 1 特徴

日本乳癌学会認定施設として、地域の乳癌診療のオピニオンリーダーの役割を担っています。ステレオ下マンモトーム生検、センチネルリンパ節生検の OSNA 法による診断などの最先端医療技術により、近隣の病院からも紹介患者が集まっています。

院内では医師のみではなく、看護部、放射線科、検査科、リハビリ科、栄養科などと連携をとりチーム医療の確立に努めています。

## 2 2010年活動実績

乳腺疾患手術件数119件（うち良性疾患24件、悪性疾患95件）  
マンモグラフィ 3340件、ステレオ下マンモトーム生検170件  
地域連携研究会（名北研究会）主催 3 回、患者会主催 1 回、学会発表11件、  
講演会 7 回

## 3 2011年目標

外科・乳腺外科としてさらに症例数を伸ばし、また、乳腺専門病院として学会発表、講演会などで情報を発信していきたい。

# 看護部

看護部長 石黒 接男

## 1 特徴

2010年 看護部目標

- (1) 看護実践能力の向上を図る。
- (2) 看護師の定着を促進する。

看護職員の動向

入職者数（パートを含む）	看護師	新卒者24名	既卒者8名
	准看護師	新卒者0名	既卒者0名
	助産師	新卒者0名	既卒者2名
2010年11月末現在	看護師（パートを含む）		186名
	准看護師（パートを含む）		19名
	助産師（パートを含む）		15名

## 2 2010年活動実績

- (1) 看護職員確保対策の取り組みの一環として
  - ・看護ナビフォーラムブースへの出展
  - ・病院見学会の実施
  - ・インターンシップの実施
  - ・リーフレットの作成・各看護学校、大学への送付
  - ・各看護学校・大学への学校訪問
- (2) 入社後のフォロー体制の強化の一環として
  - ・新人職員とのランチオンミーティングの実施
- (3) 看護の質の向上
  - ・認定看護師誕生（認知症看護1名）
  - ・認定看護師2名育成中（感染管理1名）  
（摂食嚥下1名）

## 3 2011年目標

- (1) 看護実践能力の向上
- (2) 看護部組織力の強化

## 平成22年度看護実践発表会プログラム

日時 平成22年10月16日（土） 14：00～16：00

### 第Ⅰ群 【座長…西岡】

- 第1席 内服管理アセスメントシートを用いた内服方法の検討  
発表者 楠 恵利加（RH看護）
- 第2席 内服薬の中止・再開忘れ防止について  
発表者 加藤 亜季（2階）
- 第3席 硝子体手術後のプロン体位の安楽を目指して  
発表者 鈴木 実穂（3階）
- 第4席 手術を受ける乳がん患者の不安軽減に対するアロマセラピーの効果の検討  
発表者 長永 亜弥（4階）
- 第5席 新人教育OJTの検討  
発表者 小池 徹（5階）
- 第6席 チームカンファレンス定着化に向けての取り組み  
発表者 前平 亜衣（6階）
- 第7席 甲状腺手術患者の生活指導の見直し  
発表者 下田 真琴（7階）

### ※第Ⅱ群 【座長…田嶋】

- 第1席 眼科外来における患者待ち時間の短縮  
発表者 草分 昂紀（眼科外来）
- 第2席 パンフレットを用いた脱臼指導の充実  
発表者 熊崎 愛恵（2階）
- 第3席 個人防護具の着用 ～ゴーグル着用の徹底～  
発表者 大久保 優希（5階）
- 第4席 退院後の継続した関わりによる母乳率の変化  
発表者 久保田 みゆき（7階）
- 第5席 ベッド柵と抑制 ～スタッフの意識改革～  
発表者 西山 直人（RH介護）
- 第6席 術前訪問の見直し  
～術前訪問増加によるスタッフの意識改革を目指して～  
発表者 柘 奈津実（手術室）

## 物忘れ評価外来（老年精神科）

老年精神科部長・認知症サポートチーム代表 鵜飼 克行

### 1 特徴

総合上飯田第一病院に「物忘れ評価外来」が開設されて、1年3カ月以上が経ちました（上飯田リハビリテーション病院での期間も合わせると2年以上になります）。

頭部CT・MRI・MRA・VSRAD・頸部USドップラー検査、名古屋大学医学部・放射線科との密接な連携下での脳血流SPECT（3DSSP）・MIBGシンチグラフィ、名古屋大学医学部・精神医学教室から派遣される臨床心理士による精密な神経心理検査（WAIS-Ⅲ・WMS-R・ADAS・BGTなど）を組み合わせて、脳の老化や病気の「超」早期発見・鑑別診断を行っています。また、管理栄養士（栄養科）による「高齢者栄養相談」、精神保健福祉士・社会福祉士・ケアマネージャー（医療福祉相談室）による「もの忘れ相談」を実施しています。

さらに、平成22年11月には、別働隊？として、「認知症サポートチーム」（略して、DSTと呼びます）が設置されました。このチームは、医師（代表）1名・認知症看護認定看護師（日本看護協会）1名・病棟看護師7名、薬剤師1名、管理栄養士1名、医療ソーシャルワーカー1名の、合計12名で構成され、総合上飯田第一病院に通院・入院中の、物忘れや認知症が心配の患者さんやそのご家族への援助が出来るように、活動を開始しました。

ちなみに、今年度、認知症看護認定看護師を取得した松井千恵看護主任は、総合上飯田第一病院初の認定看護師（日本看護協会）です。DSTおよび「物忘れ評価外来」の両方で活躍中です。

### 2 2010年活動実績

上記以外にも、2010年には、以下のような様々な進歩・発展がありました。

1. 名古屋大学医学部附属病院との連携の緊密化により、MIBG心筋シンチグラフィの施行がさらに容易となった（大学同期である医学部医学科放射線医学・長縄慎二教授、同保健学科放射線医学・加藤克彦教授に、この場をお借りして感謝致します）。
2. 日本老年医学会専門医研修を受講し修了した。
3. 日本精神神経学会認定臨床研修施設に認定された。
4. 日本老年精神医学会認定臨床研修施設に認定された。
5. 日本認知症学会認定臨床研修施設に認定された。
6. 名古屋大学大学院・医学系研究科との共同研究を開始した。
7. 国立長寿医療研究センター（大府市）との共同研究を開始した。

その一方で、「物忘れ評価外来」は「完全予約制」ですが、平成23年1月現在の新規患者さんの初診待機期間は、約5カ月になってしまっています。当院・法人上層部と何度も相談をしていますが、解決はなかなか難しいようで、御迷惑をおかけしておりますことを、この場を借りて、お詫び申し上げます。それでも、緊急の対応が必要と判断される患者さん、地域包括支援センターや各施設、開業医さんからのご要請には、可能な限りの対応をしています。

2010年初診患者数： 113名 (\* 2009年：91名)  
2010年再診患者延べ数：1260名

上記のように、初診患者数が増加しています。2009年の再診患者延べ数は正確には不明ですが、概ね1.5倍程度に増加していると思います。可能な限り、患者さんの待ち時間の短縮に、努力いたします。

<学術論文>

A case of dementia with Lewy bodies that temporarily showed symptoms similar to Creutzfeldt-Jakob disease. *Psychogeriatrics*

<学会発表>

- ・第25回日本老年精神医学会（熊本）  
「総合上飯田第一病院における物忘れ評価外来の現状と特徴」
- ・第29回日本認知症学会（名古屋）  
「アリセプトにより幻視が完全に消失したレビー小体型認知症（DLB）の2例」
- ・第23回日本総合病院精神医学会（東京）  
「総合病院における認知症専門外来の現状と経済的問題について」

<講演>

すぎもと在宅クリニック勉強会 「生活習慣病としての認知症」

<社会的貢献>

- ・国立長寿医療研究センター・分担研究員（共同研究を実施中です）
- ・名古屋大学大学院医学系研究科・客員研究者（共同研究を実施中です）
- ・日本認知症学会・専門医症例報告審査委員
- ・日本認知症学会・専門医試験問題作成委員
- ・名古屋市・北区認知症研究会・世話人（北区認知症研究会は、北区医師会会長の山根則夫先生を代表世話人として、年2回開催されています）
- ・名古屋市北区・もの忘れ相談医

### 3 2011年目標

「物忘れ評価外来」の混雑の緩和は、抜本的には、外来の拡大しか手はなさそうですが、物理的・経済的にその実現は困難な情勢のようなので、少しずつでも工夫を重ねて、対応方法を模索していきたいと思います。

日進月歩であるこの分野の速度に負けない様に、医療・医学研究上の成果を臨床に活かせることが出来るように、「物忘れ評価外来」を進歩・変革させていきたいと思っています。

# 麻 酔 科

麻酔科部長 岩田 健

## 1 特徴

- ① 常勤・非常勤を含め6名の麻酔科医師による診療体制を提供しています。
- ② 手術麻酔のみならず、患者自己調節硬膜外鎮痛法（PCEA）／経静脈的持続鎮痛法（IVCA）の併用をおこない、術後疼痛対策を含めた全身管理を実施しています。
- ③ 末梢神経ブロック併用の全身麻酔により、術後鎮痛対策および全身麻酔薬による呼吸循環動態への影響の軽減を図っています。
- ④ 火曜／金曜の週2回、ペインクリニック外来を開設し、急性及び慢性疼痛患者に対する日常生活の改善を目指した診療をおこなっています。

## 2 2010年活動実績

### 麻酔科管理件数の推移（件）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2008年	87	99	96	115	105	95	99	105	110	103	98	113	1225
2009年	113	101	112	122	103	142	132	134	104	111	103	127	1404
2010年	126	119	142	121	110	127	111	136	117	110	130	127	1476

### ペインクリニック外来患者数の推移（件）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
2008年	100	109	104	103	118	88	126	135	116	134	79	112	1324
2009年	109	139	136	137	143	172	130	117	133	121	115	146	1598
2010年	117	106	129	129	121	128	126	120	110	130	109	116	1441

## 3 2011年目標

- ① 安全かつ安心して手術が受けられ、さらに術者が手術に専念できる手術室環境の維持を手術室看護師とともに図っていく。
- ② 南館増築にともなう新手術室開設に向けての人的増員を含めた準備体制を整える。

# 眼 科

眼科部長 古川 真理子

## 1 特徴

1989年、網膜硝子体手術名医の荻野誠周先生を中心として眼科が開設され、以後、網膜硝子体手術を得意とする眼科として発展してきました。2002年3月からは2代目部長、古川体制となりました。診療圏は愛知県、岐阜県、三重県に及び、網膜剥離、糖尿病網膜症、黄斑疾患などの網膜硝子体手術を中心とし、白内障手術、緑内障手術、硝子体内薬物投与、その他の手術も含めて年間1,000件以上を行っています。2004年からは加齢性黄斑変性症に対する光線力学療法（PDT）、2008年からはルセンテイス硝子体投与も行っています。白内障手術は、総合病院であることの利点を生かして、入院を必要とする方を主に行っています。また、手術例の90%以上が眼科からの紹介であり、関連病院でないにもかかわらず紹介頂く先生方との信頼関係の上に成り立つ眼科です。したがって、患者さんのみならず、紹介医にも満足して頂き、治療のフィードバックを常に心がけ、最良の治療を目指して実践することを使命と考えています。

## 2 2010年活動実績

(論文)

- ◆ Kumagai K, Furukawa M, Ogino N, E Larson  
Incidence and Factors Related to Macular Hole Reopening  
American Journal of Ophthalmology 2010;149:127-132
- ◆ Kumagai K, Furukawa M, Ogino N, E Larson  
Possible Effects of Internal Limiting Membrane Peeling in Vitrectomy for  
Macular Vein Occlusion  
Japanese Journal of Ophthalmology 2010;54:61-65
- ◆ Kumagai K, Furukawa M, Ogino N, E Larson  
Factors Correlated with Postoperative Visual Acuity after Vitrectomy  
and Internal Limiting Membrane Peeling for Myopic Foveoschisis  
RETINA 30:874-880, 2010

(学会発表)

- ◆ 第114回日本眼科学会総会 熊谷 和之  
黄斑疾患の正常他眼と健康人における硝子体界面の特徴  
黄斑病他眼と健康人の硝子体界面
- ◆ 第80回九州眼科学会 熊谷 和之  
網膜静脈分枝閉塞症に対するベバシズマブ硝子体内投与と硝子体手術

## 3 2011年目標

普遍的な目標は自分が受診したい眼科を作ることです。多くの医師を備え、より多くの手術件数をこなす眼科はいくらでもあります。基本姿勢および診療の質が低下すれば当科の存在価値はありません。

# 耳鼻いんこう科

耳鼻いんこう科部長 久野 佳也夫

## 1 特徴

安全な診療をモットーに一般的耳鼻いんこう科の医療を行っています。

## 2 2010年活動実績

常勤医1名が週6日出勤、非常勤医2～3名が週2日出勤という体制が基本で、年間でおよそ40件の入院手術を行いました。手術日は必ず複数の耳鼻科医が院内に滞在することとし、想定外の事態にも備えています。

救急医療への対応も可能な限り行い、救急車での来院患者さんは基本的に入院して経過観察していただいています。

## 3 2011年目標

夜間や週末など、院内に耳鼻科医が不在の時間帯の対応を充実させることが目標です。



# 産婦人科

産婦人科部長 徳橋 弥人

## 1 特徴

当院産婦人科は、医師不足のため規模を縮小する施設や分娩取り扱いをやめる施設が多い中で、何とか分娩を含め産科婦人科一般を行っております。常勤医1人と数人の非常勤医で診療に当たっており、名古屋大学産婦人科とも密な連携を行っております。1人常勤でもありやれる事が限られてきますが、少しずつ分娩数・手術数も増えてきております。

## 2 2010年活動実績

総分娩数 169件

手術数

子宮全摘	23件	帝王切開	29件
付属器摘出	3件	子宮頸管縫縮	1件
悪性腫瘍手術	3件	流産手術	15件
子宮頸部円錐切除	6件	子宮脱	2件
その他	6件		

## 3 2011年目標

可能なら4Dエコー外来・および更年期外来などを新設し、よりいっそうの患者サービスを行い、地域の中核病院として地位を築いていきたいと考えております。

# 小児科・アレルギー科

小児科部長 後藤 泰浩

## 1 特徴

地域密着型の当小児科は、月曜から金曜まで午前中一般外来を開いています。午後、乳幼児健診と予防接種・アレルギー・発達相談の各専門外来を開いています。入院診療は近隣の開業内科小児科の先生方からの紹介入院、軽症短期入院に限って受け入れます。小児科医療の機能分担の中で基幹病院への橋渡しをしています。今年度、鳥居 新平先生から木許 泉先生にアレルギー科診療を引き継いでいただき、歴史ある診療科を継続していただけることになりました。また県立こぼと学園に長らく奉職された早川 知恵美先生に、新たに育児・発達相談外来を開いていただきました。当院出生児のケアや帝王切開出生時の立ち会いもひきうけ常勤医2名を維持し、地域・病院に必要とされる病院小児科を存続すべく努力を続けています。

## 2 2010年活動実績

- 6月 第18回名古屋北部小児連携の会 総合上飯田第一病院
- 7月 名古屋市・医師会・小児科医会 任意予防接種費用助成事業説明会  
伏見ライフプラザ 鯉城ホール 後藤
- 10月 小児健康フォーラム2010 『今知っておきたい新しい予防接種とワクチン』  
総合上飯田第一病院 後藤
- 11月 第19回名古屋北部小児連携の会 『境界領域の発達障害と相談外来』早川 知恵美  
『新しいワクチンカレンダー』 総合上飯田第一病院 後藤
- 12月 名古屋市・医師会・小児科医会 任意予防接種費用助成事業説明会  
「小児肺炎球菌ワクチン（プレベナー）接種について」  
伏見ライフプラザ 鯉城ホール 後藤

2010年前半は、15年にわたりアレルギー科を支えてきた鳥居 新平先生がご開業などの事情で勇退され憂慮しましたが、幸いにも木許 泉先生を迎えることができました。後半、名古屋市が任意接種ワクチンの費用助成事業を開始、ついで国も将来の定期接種化にむけてワクチン助成枠をひろげ、展望が広がっています。

## 3 2011年目標

新たに立ち上げた育児・発達相談外来やアレルギー外来を育てていく計画です。地域の住民や開業・病院の先生方に新たな専門外来の情報をお伝えし、ご利用をお願いしていきます。

予防接種助成枠の拡大でいよいよワクチン関連の仕事も増えていきます。一般向けに正しい情報の発信が大切になります。われわれスタッフ自身の勉強もすすめ、内容や受け入れ体制の強化を図ります。

# 泌尿器科

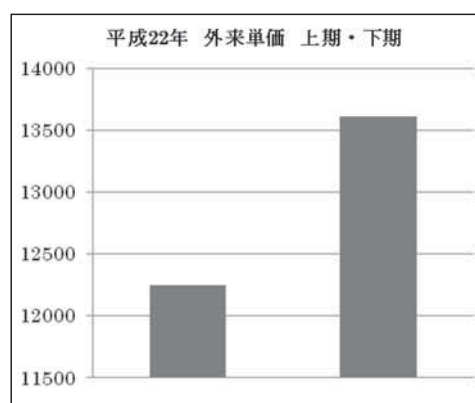
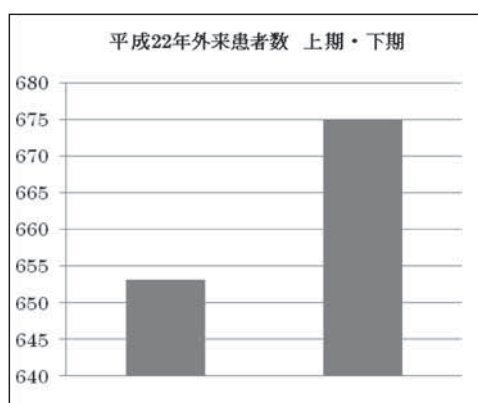
泌尿器科医長 井村 誠

## 1 特徴

近年増加する前立腺疾患や、男女問わず QOL を下げる過活動膀胱などの疾患を中心に、ほとんどの泌尿器科疾患の診療を行っている。前立腺癌の針生検検査による診断から治療を行い、必要に応じて大学病院などの高次病院での治療が必要な症例を紹介し、高次治療終了後は当院外来での継続治療をするなど連携を生かした診療を行っている。表在性膀胱癌、前立腺肥大症の内視鏡手術および停留精巣などの小児先天性疾患に対する手術を積極的に行っている。

## 2 2010活動実績

**外来診療**：排尿障害、前立腺疾患、尿路生殖器癌の患者さんを中心に診察している。安定した患者さんを午前中に診療し、インフォームドコンセントや検査の必要な患者さんは午後に行うことで外来機能の住み分けと診療の効率化を図っている。前立腺癌・腎癌の外来化学療法を積極的に行うことで、順調に患者数及び1診療あたりの診療報酬が増加した。数値としては、平成22年の外来患者数約630人/月、単価11700程度から平成22年は約660人/月、単価12900であり。上期と下期を比べると、上期の外来患者数約650人/月、単価12200に対し、下期は約680人/月、単価13600と順調に伸びてきている。



**入院診療**：増加傾向にある前立腺癌の早期発見を目指した前立腺生検検査数は約5人/月と安定しておこなっており、それに伴い新規前立腺癌患者数が増加し、外来での治療患者数および単価の増加へと繋がっている。

## 3 2011年目標

これまで行ってきた診療の効率化と重点と考えている疾患の治療を継続、進歩させたい。当科で可能な診療を十分に行い、他科の先生方、医療スタッフ、医事スタッフの方や他の高次治療施設と緊密に連携しながら「信頼され、愛される病院」の理念達成を目標とする。

# 皮膚科

皮膚科医長 野尻 万紀子

## 1 特徴

現在皮膚科は常勤医 1 名、毎週火曜日は大学から非常勤医 1 名体制で外来診療を行っております。

診療は一般皮膚科（保険診療）を全般にまた自費診療（ケミカルピーリング）を行っており保険診療では、アトピー性皮膚炎や蕁麻疹等の日常よく見られる疾患、帯状疱疹や疣贅などのウイルス性疾患、白癬、カンジダ等の真菌症、伝染性膿痂疹等の細菌感染症、水疱症、腫瘍性疾患、熱傷、糖尿病性皮膚潰瘍や膠原病をはじめとする全身性疾患にもとづく皮膚病変等さまざまな皮膚疾患の診断、治療に携わっています。

また、病変によっては血液検査やパッチテスト（化粧品や金属アレルギーを含む）プリックテスト、薬剤アレルギー検査等を行い原因検索を行ったりしております。皮膚腫瘍に関しては病理組織検査などの各種検査を施行、確定診断後に必要時近隣の形成外科へ紹介しております。その他、スキンケア指導や洗浄剤、保湿剤、基礎化粧品などの紹介等も行っております。

## 2 2010年度活動実績

- 第17回東海皮膚アレルギー研究会
- 第61回日本皮膚科学会中部支部学術大会 研修講習会
- 第109回日本皮膚科学会総会
- 日本皮膚科学会東海地方会
- 第3回皮膚病理講座セミナー
- 院内褥瘡勉強会（発生要因、薬剤、創傷被覆剤等）開催

## 3 2011年目標

大学病院と連携し市中病院皮膚科としてニーズに応えられる医療を目指す。  
褥瘡院内新規発生0(ゼロ)を目指し、さらなるレベルアップを図る。

# 整形外科

整形外科部長 良田 洋昇

## 1 特徴

魅力あふれる整形外科をめざして

おかげさまで当院整形外科も毎年着々と実績をあげており、手術件数も毎年増加しています。これも近隣および関連病院の諸先生方のご支援の賜物と考えております。今後も一層の精進を重ねて参りたいと思います。そして今後の益々の発展を目指して、当整形外科の特色として以下の3つを掲げます。

(1) 地域に密着した医療を忘れないこと。

患者さんの多くは近隣のご年配の方です。患者さんに優しく、親切に。日々の診療を行っております。

(2) 高度な専門性を持つこと。

人工関節、関節鏡、脊椎、腫瘍に関しては名古屋大学整形外科から非常勤の先生方のご協力をいただきまして、専門外来および専門手術をおこなっています。また週3回のスポーツ外来も好評を得ております。

(3) 若手医師の修練の場であること。

次世代の専門医の育成は私どもの責務です。若手の先生方にも、できる限り専門手術の研鑽の場を提供していきたいと考えています。興味のある方は是非一度見学に来てください。

## 2 2010年活動実績

手術件数	745件
内訳	
人工骨頭置換手術	52件
大腿骨骨折観血的手術	135件
人工膝関節置換手術	19件
人工股関節置換手術	11件
膝関節鏡手術	75件
	(うち ACL 再建 21件)
肩関節鏡手術	14件
脊椎手術	63件
その他	353件

2010.1.23 第5回上飯田アーバント  
講師 名古屋市立大学教授 大塚 隆信先生

2010.8.21 第6回上飯田アーバント  
講師 名古屋大学教授 平田 仁先生

## 3 2011年目標

上記「特徴」にて当科の目指すところを述べています。

# 健診センター

センター長 脇田 彬

## 1 特徴

「総合上飯田第一病院 健診センター」では、総合病院に附属する健診センターという特徴を生かし、高度医療機器を用いたハイグレードな技術で全項目を自施設で行っています。

健診コースには「半日ドック」、「脳ドック」、「乳癌検診」、「子宮癌検診」、「一般健診」、「協会健保生活習慣病予防健診」、「特定健診」、「特定保健指導」、「簡易脳検診」、「肺癌検診」、「レディースドック A・B」各種「オプション検査」など受診者様の多種多用のニーズに幅広くお応え出来る様ご用意しています。

そして、検査結果の読影には各項目ごとに、それぞれ当院自慢の専門医がダブルチェックにて行っています。これは、他の健診機関には無い贅沢な“当健診センターのセールスポイント”としています。

更に、その健診結果により二次検査や治療が必要と判断された受診者様には速やかに各専門診療科へ紹介させていただき、健診受診後のフォローにも万全を期しております。

## 2 2010年活動実績

半日ドック	1,303名	(前年度比：107.3%)
脳ドック	366名	(前年度比：141.3%)
乳癌・子宮癌検診	886名	(前年度比：230.1%)
協会健保健診	1,224名	(前年度比：147.8%)
一般健診	1,462名	(前年度比：177.4%)
特定健診	829名	(前年度比：165.5%)

## 3 2011年目標

受診者件数5%UPを目標とし、平均顧客満足度90点以上をキープします。

顧客満足度アンケートの実施を始めてから2年が経ちますが、満足度の平均点が90点を下回った月はありません。ただ、受診件数の急増に伴い「待ち時間」が長いという不満の声が聞こえて来る様になりました。

「長い待ち時間」と言うものに定義はありません。その方が「長い」と思えば例えば5分の待ち時間でも「長い待ち時間」になってしまいます。

ですから、「長い」と思わせない“おもてなし”に気を配り、「待ち時間問題」に取り組んでまいります。

# リハビリテーション科

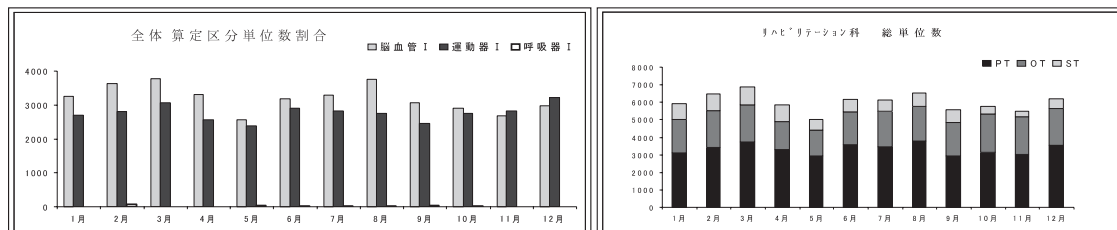
リハビリテーション科長 影山 滋久

## 1 特徴

- 1) 施設基準：脳血管疾患リハⅠ、運動器疾患リハⅠ、呼吸器疾患リハⅠ。
- 2) スタッフ：理学療法士10名、作業療法士6名、言語聴覚士3名、助手3名。
- 3) 基本方針：早期訓練、早期離床、早期退院を目指す。

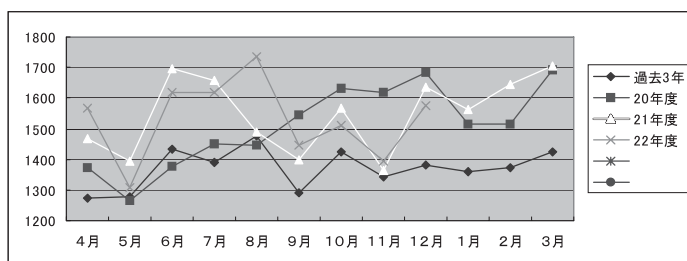
## 2 2010年活動実績

- 1) 学会発表：(PT) 日本理学療法士学会 2 演題、愛知県士会学会 1 演題、(OT) 日本作業療法士学会 1 演題。
- 2) 実習生受け入れ：(PT) 名古屋大学を含め 6 校18名、(OT) 名古屋大学を含め 5 校 6 名を受け入れている。(ST) 今後受け入れ予定。
- 3) 関連施設との連携：施設と内容を検討し退院時サマリーを作成している。
- 4) 地域連携パス：脳卒中は年 3 回名古屋北部連携会を、大腿骨近位部骨折は上飯田頸部骨折連携パス運営会議を年2回開催している。
- 5) 患者動態と収益



「過去3年間の平均収益と22年12月までの比較」

20年度は例外で、通常は5月、9月、11月に患者数の減少に伴い収益も減少する傾向がある。22年度は、脳外科の休診が響き、運動器の割合が増加したため21年度程度の収益の見込み。



## 3 2011年目標

スタッフ全員の専門性を高めるため、専門理学療法士や呼吸等の認定療法士の資格摂取を積極的に推進する。今年度は糖尿病認定療法士を摂取する予定。今後更に他部門との連携を深め最良なサービスを提供し、早期離床・早期退院を推し進める。関連病院及び施設との連携強化を検討する。また研究活動を継続し知識、技術向上及び学会発表を行う。

# 栄 養 科

栄養科顧問 岡本 夏子

## 1 特徴

- 1) 入院食事基準：入院食事療養Ⅰ
- 2) 組織
  - 臨床栄養管理：三施設の栄養管理体制の一本化を実施（管理栄養士10名）  
（総合上飯田第一病院6名 健診センター1名  
リハビリテーション病院2名 上飯田クリニック1名）
  - 給食管理：第一・リハビリ病院は日本ゼネラルフード株式会社に委託  
給食管理業務をライン化し、同一献立の実施  
クリニックは日清医療食品株式会社に委託
- 3) 基本方針
  - 臨床栄養管理：入院患者の栄養ケアや外来患者の適切な栄養指導に心がけ、  
疾病の早期治療に努める
  - 給食管理：美味しい食事の提供と特別治療食の効果を十分活かす
- 4) 多職種協同：多くの治療チームに属し、活発な活動に努める

## 2 2010年活動実績

- 1) NST チーム活動の充実と NST 専門療養士認定施設として承認される  
栄養サポートチーム加算診療報酬申請を4月に行い、9月より認定施設として算定  
(管理栄養士が専従スタッフとして登録)
- 2) 認知症サポートチームへの参画（外来栄養指導の開始）
- 3) 緩和ケアチームへの参画
- 4) 経腸栄養剤・手技の見直しと経腸パス（PEG パス）の作成
- 5) 職員食の栄養基準と献立の見直し  
集団給食としての必要な帳票類の提出（保健所に毎月）
- 6) 実習生の受け入れ（管理栄養士養成校4校から計16名）
- 7) 指導件数
 

入院栄養食事指導	1,348	NST サポート(チーム加算)	230
外来食事指導	498	ドック栄養指導	1,079
集団食事指導	132	特定保健指導(面接)	134
栄養管理実施加算	64,436	特定保健指導(その他)	227
- 8) 栄養士の心得について講演（名古屋文理大学1年生対象 岡本夏子 6/11）

## 3 2011年の目標

- 1) 化療食の見直し
- 2) 緩和ケアチームへのかかわり方の明確化
- 3) 患者食アンケート内容の見直しと献立の充実
- 4) 糖尿病料理教室の開催
- 5) 栄養士の資質、意欲向上を目的に研修会に積極的に参加し、専門性を磨く



# 臨床検査部

臨床検査部技師長 松崎 雄一

## 1 特徴

臨床検査部は、城部長をはじめ総勢16名で構成されています。日常業務の範囲は生理検査、検体検査、病理検査、輸血検査、採血業務に加え、耳鼻科の聴力検査、外科乳腺エコー、健診センターの臨床検査部門などへも出向しています。また2010年には、乳がんリンパ節転移迅速検査システムを導入し、リンパ節中の標的遺伝子を高精度かつ迅速に検出することが可能になりました。

地域医療を推進するため、迅速で正確な検査を24時間体制で行い、患者様の信頼感および安心感を得られる医療サービスの提供に努力しています。また、良質な医療を提供するため、個々の知識および検査技術の向上を目指し、学会、研修会などの発表を積極的に行っています。

## 2 2010年活動実績

一般生化学をはじめ、腫瘍マーカー、甲状腺ホルモンなど外来迅速検査を実施しています。

2010年の臨床検査（検体検査）取り扱い件数

総取り扱い件数 ……………80,349件

院内検査件数 ……………73,506件

外来 ……………50,485件（迅速件数 42,310件）

入院 ……………23,021件

院外検査件数 ……………6,843件

2010年の臨床検査（病理検体）取り扱い件数

病理生検数 ……………2,019件

手術検体件数 ……………1,045件

細胞診件数 ……………4,228件

院外活動

2010年9月4日 日本乳腺学会中部地方会 当院で導入された OSNA 法の使用経験  
院内活動

看護師対象の中級心電図波形の読み方講習会計2回実施

## 3 2011年目標

臨床検査技師として各人の資質向上を図る目的で、各種認定技師の資格習得を目指し、専門性の研磨に励む。

生理検査システムの充実を図り、電子カルテ上で生理検査全般が閲覧できるようにする。

輸血業務の一元管理に取り組む。

# 放射線科

放射線科技師長 片桐 稔雄

## 1 特徴

当放射線科は、地域の患者様から「信頼され愛される病院」の理念のもと、質の高い画像を提供できるように、日々研鑽しています。そのために、放射線技師一人ひとりが、プロ意識を持って、成長できるように育成、組織作りをしています。学会や勉強会の参加にも力を入れ、専門的知識と技術をもって、患者様に安全で安心な検査を提供できるように努めています。

2010年5月より、読影レポートシステムが稼働され、CT・MRIがフィルムレス化となり、マンモグラフィーを除くフィルムレスが完成しました。

依頼伝票などの情報は、すべて電子カルテより入力し、ペーパーレス化へ貢献しております。これにより、オーダー端末のある場所で、いつでもレポートの作成、画像やレポートの参照が可能になり、情報の共有化が可能となり、質の高い医療に貢献しております。

また、6月にはデジタルマンモグラフィー装置を導入し、放射線科画像が完全デジタル化になりました。こちらもまた、質の高い画像提供に貢献しております。

## 2 2010年活動実績

CT 件数は、年間約9400件 月におよそ780件

MRI 件数は、年間約4570件 月におよそ380件

乳房撮影は、年間約3340件 月におよそ280件

マンモトームは、年間約170件 月におよそ14件

健診胃透視は、年間約2331件 月におよそ190件

その他、一般撮影が、一日100～150件

CT・MRIは、横ばいであるが、他の検査は、年々増加しております。

## 3 2011年目標

IT化

読影時や検査時のカルテレスを行い、病院全体のカルテレスに貢献したいです。

また、マンモグラフィーの読影レポートシステムを検討し、完全フィルムレス化の構築を検討したいです。

放射線科内のIT化も検討し、RISの導入や、携帯端末での遠隔診断なども視野にいれ検討し、患者の負担、スタッフの負担の軽減につながればと考えております。

南館増築

南館1階救急室スペースのインフラの整備を行い、3TMRI、多チャンネルCT(64列以上)の検討を行い、高度な医療画像の提供に努力したいと考えます。

関連病院との連携を深め、地域住民へ高度先進医療の提供を検討し多施設との差別化を図りたいと思います。

# 薬 局

薬局長 中西 啓文

## 1 特徴

円滑に医療行為ができる様に、薬剤の調剤・調製を基に、薬剤の提供及び薬品の情報提供等を適切に行い、サポートする。

薬剤の適正使用を目的に、処方チェック・使用法チェック等、チェック機関として全てのチェックを行う。

病棟業務・チーム医療を通じ、患者様を直に観察し、副作用症状などの情報収集に努める。

スムーズに治験が行えるように治験薬管理を行いサポートする。

などの業務を9名の薬剤師と1名の事務スタッフで取り組んでいる。

## 2 2010年活動実績

入院時の持参薬チェック件数が増加してきており、電子カルテ等を活用することによって、医師・看護師に対する医薬品情報提供体制も充実してきた。

始まったばかりであるが、外来・入院全ての化学療法のみキシングを薬剤部に開始し、医療安全の面でも寄与することが出来ている。

薬品管理に改良を加えながら、SPDと共に無駄の無いように努めた。

常備薬定数の見直し、使用期限のチェック体制を大幅に改善した。

調剤業務・注射剤調剤業務については、以前からの当院独自のセット付け方法を駆使し、効率よく払い出しが出来ている。

院内製剤の調製は、以前から使用しているものを厳選し、在庫量の見直しも行った。無菌調製もクリーンベンチ使用により引き続き行っている。

一部の抗生剤（MRSA用薬剤）ではあるが、薬剤師によるTDM業務を続け、薬剤の適正使用の一躍を担っている。

治験コーディネーターと共に治験薬管理を行い、保管状況も良好である。

当直体制は、外部からのスタッフにも力を借りながら順調に熟している。

## 3 2011年目標

持参薬チェックや化学療法剤のみキシングにより他の業務が圧迫されてきているため、施行方法等を精査し、効率よく行えるような体制作りを行う。

薬剤師の病棟常駐化を見据えて、増員後すぐに取りかかれるよう準備を始める。

薬学部6年制に伴い、実習生の受け入れを当院でも始める。今年前半でカリキュラムを作成し受け入れ体制を確立、学生実習に備える。そして、学生とのその後が繋がるような方法をとりたい。

減少している薬剤管理指導件数の回復を図る。

# 臨床工学科

臨床工学科主任 浦 啓規

## 1 特徴

臨床工学科は、科の名前通り臨床と工学という2つの要素を持った科です。

臨床面においては、透析などの血液浄化全般・人工呼吸器装着者の呼吸状態把握・右心カテーテル検査時の圧力確認など、機器を操作し患者さんの状態管理や治療を行っています。

工学面においては、麻酔器の使用前点検・臨床で使用する機器の保守点検を行い安全で質の高い治療が行えるよう努めています。

また、機器の一括管理をバーコードで行っているため、どの機器がどれくらいの割合で使用されているかの稼働率も算出し機器メンテナンスに取り組んでいます。

## 2 2010年活動実績

項目	2010年 合計件数
血液浄化（透析・ECUM など）	333件
ペースメーカーチェック	73件
腹水濃縮	11件
右心カテーテル	7件
勉強会（看護師対象）	5件
ペースメーカー植込	2件
エンドトキシン吸着	1件

## 3 2011年目標

総合上飯田第一病院に臨床工学科ができて9年目になります。最初は3名だった臨床工学技士も、今は6名になりました。業務量も増え取り扱う機器も機能も、どんどん進化しています。

それに応じて6名が個々に知識と技術を向上させ、お互いに協力しあうことにより、臨床工学科のチーム力を底上げし、関連する他の科に今まで以上の情報と技術で貢献し、患者さんに安全で質の高い治療を提供していきます。

# 医療福祉相談課

課長 権田 吉儀

## 1 特徴

医療ソーシャルワーカーは患者やその家族の方々の抱える経済的・心理的・社会的問題の解決や調整を援助し、社会復帰の促進を図る業務を行っています。

2010年に新卒の採用を2名とし、現在当院の医療ソーシャルワーカー6名で業務を行っています。病棟での体制は2年前より各病棟単位の専任制としています。この一年は新人医療ソーシャルワーカーの教育・育成に力を注ぎ、各病棟に1名の専任体制とはなりませんでしたが、来年度以降、急性期病院なかでは数少ない1病棟1名の専任体制が実現します。今日の経済不況下での健康保険制度の改定等の影響を受け、経済的（医療費・生活費）の問題相談の増加傾向にあります。病棟担当制を行う中で入院の早い段階から退院支援業務確立を推進するシステムを確立させつつあります。以前からの傾向ではありますが要介護高齢者の退院支援にあたっての相談件数が群を抜いて多い状況です。

## 2 2010年活動実績

2010年の相談件数実績は、延べ10,246件でした。新規相談ケースは1,404件（入院931、外来473）でした。

2010年の課題は昨年に引き続き、退院支援・援助について退院後の療養支援を効率的であり質的にも担保できるシステムの構築を掲げ「退院支援の中心に、リエゾンチーム（仮称）という多職種チームをつくり、入院から退院までの継続的カンファレンスをおこなうことによって、支援対象者の入院中での治療状態及び退院後の環境（社会的背景）状態のチェックと退院時に予測されるリスクマネジメントを実施すること。同時に具体的な退院支援・援助を医療ソーシャルワーカーが中心に展開するとしました。その具体化として病棟担当制の実施。早期介入支援の具体化とし全入院患者様の入院時の社会背景評価を実施しました。このリエゾンシステムの結果は、スクリーニング抽出件数は、1,554件であり具体的に介入支援件数は、1,042件、介入率は67.1%でした。

一方今年度は、介護連携を重視した診療報酬改定（介護支援連携指導料）もあり、名古屋市北区内の居宅介護支援事業者との情報共有シートの統一化（生活情報連携シート）の検討の開始をしました。これは区内医療機関（病院）の担当者と及び介護保険ケアマネジャーの連携で、入院時から及び、退院時での患者情報の共有を効率的に、更には患者支援の質を高めるものとして位置づけて取組みました。公費医療制度利用を推進する事も掲げ、福祉給付金制度利用申請は、86件でした。

## 3 2011年目標

今年の重点目標はリエゾンシステム（退院援助支援システム）の強化について昨年に続き取組みます。地域介護支援組織との情報共有シートをリエゾンシートの基礎として位置づける事とします。更に今年度も公費医療制度（障害医療費助成 福祉給付金）の利用の推進につとめます。地域医療連携室の協同の業務も具体化して行きます。これらの活動を通して医療・介護・福祉連携の課題をしっかりと位置づけて愛生会関連法人も含めた地域連携を推し進めていきます。

# 地域医療連携室・予約センター

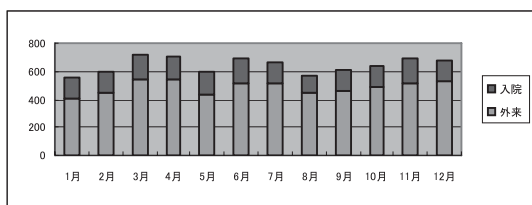
地域医療連携室看護師長 中川 美樹子

## 1 特徴

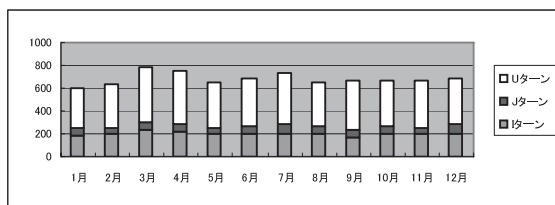
H22年3月地域医療連携室は専任看護師1名、H22年9月地域診療科医師1名が配属となり、院内多職種の連携業務により関連福祉施設の入退院の調整窓口業務を中心に関連事業所等の対応を新たに開始しました。予約センターでは事務員5名が紹介患者の受付対応を行い紹介状、回答書の管理業務を中心に検査や診察の予約対応を行っております。また地域医療従事者向け講会・勉強会の開催、地域医療連携パス等、会議の窓口業務を行い地域医療機関との連携を図っております。

## 2 2010年活動実績

2010年の紹介件数実績 7719件



逆紹介実績 8165件



### 教室開催 講演会開催

地域医療従事者向け講演会	地域住民教室
7月9日 摂食・嚥下について	8月6日 摂食・嚥下
11月6日 認知症	10月1日 栄養管理
2月9日 ポジショニング	12月3日 口腔ケア

地域医療連携パス会議・名古屋北部学術講演会3回開催  
7月16日・12月1日・3月予定

愛生福祉関連施設入所者入退院支援

緊急入院受け入れ …… 延べ31件 (9月～12月)  
退院支援 …… 延べ129件 (3月～12月)

## 3 2011年目標

地域医療連携室看護師業務の退院支援拡大  
入院時総合機能評価の確立  
地域医療従事者向け講演会・地域住民向け教室の継続  
地域医療連携パス後方医療機関、維持期医療機関との連携会議開催